

日本哲学史研究

第 5 号

西谷啓治における「科学と宗教」の現代的意義

——生命科学の危機的な諸問題を前にして——

岡田 安弘……………一

西田幾多郎の宗教的世界の論理

——新儒家の宗教観との比較を兼ねて——

黄 文宏……………二四

西谷における自他関係の問題……………シルヴァン・イザク……………五四

西田哲学批判としての「種の論理」の意義……………守津 隆……………八二

「絶対無」としての「絶対的生」とは何か

——ミシエル・アンリと仏教あるいは田辺元との対話——

ダニエラ・ヴァルトマン……………九七

2008年9月

京都大学大学院文学研究科
日本哲学史研究室紀要

執筆 者

岡田 安弘

黄 文宏

S・イザク

守津 隆

D・M・ヴァルトマン

神戸大学名誉教授

台湾国立清華大学哲学研究所准教授

ルーヴァン・カトリック大学哲学部博士課程在学

京都大学大学院文学研究科博士課程在学

ミュンヘン大学哲学部博士課程在学

日本哲学史研究 第五号

二〇〇八年九月一五日印刷

二〇〇八年九月二〇日発行

発行者

京都大学大学院文学研究科

日本哲学史研究室

京都市左京区吉田本町

印刷所

ショウワドウ・イープレス株式会社

京都市左京区百万遍交叉点上ル東側

日本哲学史研究

バックナンバー目次

第一号

藤田正勝「和辻哲郎「風土」論の可能性と問題性」

伊藤徹「幻視された「自己」」

ブレット・デービス「退歩と邂逅——西洋哲学から思索的対話へ——」

杉本耕一「西田哲学の「転回」と「歴史哲学」の成立」

第二号

平田俊博「日本語の七層と現象学的優位——日本語で哲学する——（前）」

古東哲明「臨生する精神——日本人の他界観——」

宮野真生子「美的生活の可能性と限界——柳宗悦「第三の道」とは何か——」

藤田正勝「西田哲学と歴史・国家の問題」

第三号

片柳榮一「アウグスティヌスと西田幾多郎」

林鎮国「西谷啓治——空と歴史的意識をめぐって——」

岡田勝明「日本思想における二重言語的空間——西田幾多郎の場合——」

ステフェン・デル「真の自己の否定性

——上田閑照の「自己ならざる自己」の現象学——」

第四号

清水正之「哲学と日本思想史研究

——和辻哲郎の解釈学と現象学のあいだ——」

藤田正勝「西田幾多郎の国家論」

杉本耕一「歴史的世界における制作の立場——後期西田哲学の経験的基盤——」

ジェラルド・クリントン・ゴダール「コケムシから哲学まで

——近代日本の「進化論・生物学の哲学」の先駆者としての丘浅次郎——」

《書評》高坂史朗、藤田正勝著『西田幾多郎——生きることと哲学』

STUDIES
IN
JAPANESE PHILOSOPHY

NIHON TETSUGAKUSHI KENKYU

Vol. 5

September, 2008

Religion and Science in Keiji Nishitani's Philosophy and Bio-ethical Problems in the Life Sciences · · · · Yasuhiro OKADA

Kitaro Nishida's Logic of the Religious World: A Comparison with the Religious View of Contemporary Neo-Confucianism
· · · · · HUANG Wen-Hong

The Question of the Self-Other Relationship in Nishitani
· · · · · Sylvain ISAAC

Tanabe's Logic of Species as Criticism of Nishida's Philosophy
· · · · · Ryu MORITSU

Absolute Life as Absolute Nothingness? A Dialogue between Michel Henry, Buddhism, and Hajime Tanabe
· · · · · Daniela Maria WALDMANN

DEPARTMENT OF JAPANESE PHILOSOPHY
GRADUATE SCHOOL OF LETTERS
KYOTO UNIVERSITY

Kyoto, Japan